

バイオクライマティックデザイン小委員会 2007 年度 第 4 回

議事次第

■日時： 2008 年 1 月 31 日（水）17:00～19:00 委員会

■場所： 建築会館 会議室

■内容：

1. 前回議事録確認
2. 出版に向けての体制づくりと進め方
3. 話題提供
4. その他
5. 次回委員会日時

バイオクライマティックデザイン小委員会 2007 年度 第 3 回 議事録 (案)

A. 日時： 2007 年 10 月 18 日 (水) 18:00~委員会

場所： 建築会館

B. 出席者： 斉藤雅也 (札幌市立大学)、宿谷昌則 (武蔵工業大学)、  
鈴木康司 (OM 計画)、鈴木信恵 (武蔵工業大学)、須永修通 (首都大学東京)、  
廣谷純子 (オーガニックテーブル (株))、深沢たまき (首都大学東京)、  
松本聡子 (首都大学東京)、若松俊哉 (武蔵工業大学)、  
宇野朋子 (東京文化財研究所) :  
10 名 (敬称略、順不同)

C. 資料： 07-3-0 バイオクライマティックデザイン小委員会 2007 年度第 3 回議事次第  
07-3-1 バイオクライマティックデザイン小委員会 第 2 回 議事録 (案) : 宇野  
07-3-2 AIR-CONDITIONING & THE LOW CARBON COOLING CHAKKENG 会議案内 : 宇野  
07-3-3 都心の用途転用集合住宅における温熱環境改善に関する研究 : 松本  
07-3-4 出版に向けて : 斉藤

D. 審議事項：

1. 前回議事録確認→承認

2. 出版に向けて

出版に向けての体制作り

- ・WG 立ち上げ。メンバー (主査 : 長谷川先生、+本委員会メンバー)
- ・メンバーには、設計者を加えたい。
- ・WG 内で、出版の内容について話を進める。

出版のターゲット

- ・メッセージの発信先を決める。
- ・学会として出版する意義。参考図書となること。
- ・設計原理+事例→設計者 ↔ ライフスタイル+ソフトウェア→一般
- ・建築学科の教育 (設計者と環境工学の交わらない部分)

内容について

**事例集ではなく：**

- ・事例集ではなく、パッシブデザインの設計の基本や目的がわかる本。
- ・現代の具体的な事例集 (ハードの紹介) ではオリジナリティがない。
- ・ソフト (ライフスタイル、住まい方、住まいこなし) について、居住者からヒアリングを行い、ハード (機能) が実際どのように使われているのかを見せられるとよい。
- ・事例集のように数を載せるのではなく、数点に絞り、現地ノリコミ見学+住まい

手と書き手の対談。専門家によるコメント。設計者による弁解。

・たとえば、「有名建築を斬る」。有名建築家（デザイナー）VS 若手の環境工学者・学生。作家のこだわり、環境への配慮についてインタビュー。

・環境を意識したベテラン建築家に、若手研究者からインタビュー（批評）。

・もしくは、若手建築家 VS ベテラン環境工学者（批評）。

・過去の建築のその後（5年後、10年後）。住まい方、性能はどう変わったか。設計意図が反映されているのか。住まい手、設計者、環境工学者による3者対談。

・住宅・学校、地域施設・娯楽施設（動物園など）を取り上げてはどうか。

・コラム

**発信元：**

・建築設計のエンジニア+設計者による本。

**設計に役立つもの：**

・建築環境学者が発信。定量的にはアバウトだが、パッシブ手法を使う結果として定性的に正しいものを。

・逆引き本（キーワード：断熱、パッシブなどを、詳しく説明。教科書的ではなく、わかりやすく解説をする。）

・I地域からVI地域までの事例を取り上げる。

**設計者が求めるもの：**

・設計者の求めるもの→原理は理解しているが、実際に使ってみてどうなのか。環境学者からの批評、技術面でのフォロー。

・相談すべき先となる環境学者をどう探すか。

今後の予定

（MLで対応）

- ・測定データのある事例リスト作成
- ・見学したい建築リスト作成（1月委員会で実施）
- ・事例集パッシブ建築

（委員会で実施したい）

- ・WGメンバーによる実建築の見学。（荒川区立小学校、荒谷先生の住宅）

参考本など

- ・NEDO 太陽光発電導入ガイドブック
- ・太陽電池（大野 日研設計）
- ・エコハウス私論（小林光）

- ・OM 設計ブログ 土地探し
- ・GA 建築〇と×
- ・日研アーキテクチャ 小玉先生の事例

E. 話題提供①：松本聡子さん（首都大学東京）による講演

「都市の用途転用集合住宅における温熱環境改善について」

オフィスビルとして使用されていたが、賃貸住宅として転用予定。現在着工中の物件である。このままでは環境的に問題のある建築を、それなりに使えるものにすることが目標。

Q 冷房付加が上がるのではないかな？

A テラス部分は冷房を行わない。日射遮蔽が重要であるが、コスト面からブラインドなどの設置は不可能であった。正面のガラスを部分的に開放可能にした。室内との間仕切りは単層ガラスの引き戸。

Q 解析は、設計のどの段階で示したか？

A 設計の後半に示した。内容よりもコストの面から無理なことが多い。

- ・内部テラスは、北海道での風除室のようで面白い使い方ができるだろう。
- ・当初、設計者は断熱の必要性を感じていなかったが、結果を示すことで多少理解したようだ。
- ・屋上は、内側から断熱。
- ・ALC なので冬は暖かいだろう。テラスの夏対策にコストをかける必要がある。
- ・今後は、改修のモデル化を作成。

話題提供②：斉藤委員（札幌市立大学）による講演

「北海道黒松内中学校 環境教育 特別セミナー」

・服装は部屋の規模によって変わる。小さい部屋だと薄着。暖房設定は高め。

Q 照度の感覚が非常にあっているが、事前に講義をしたのか？

A 教頭先生（技術科のご担当）による照度測定をする演習が事前にあったようだ。

・改修されていない部分を残して、改修による環境の変化を実感できるようにしたほうがよい。改修の必要のない場所を理解することも大切。

- ・10年後、20年度にこの性能が当たり前になったときの生徒の反応を知りたい。教育にどのように生かすことができるか？
- ・同様のプログラムを何年も継続することが必要。簡単なワークシートを作るとよい。
- ・環境教育の評価が必要。エコスクールにも追跡データがなかった。

F. 次回委員会の予定：

日時：2008年1月31日 17:00～

場所：建築会館

内容：①出版に向けての体制づくりと進め方

② RE2007 展示会での開催されるセミナーについて